

## 障害のある子どもたちに水泳の楽しさを伝えたい

前村智志（水泳／タッパー） キッズアドベンチャー代表/障害者水泳指導員

水泳の鹿児島県選手団として参加する前村智志さん。大会ではスケジュール管理や選手の体調管理などの業務を担いながら、視覚障害の選手がゴールやターンの際に壁が近づいていることをバーで叩いて教える“タッパー”も兼務。



「選手に壁の位置を知らせることを“タッピング”といい、その役割をする人が“タッパー”です。私の息子も障害者で水泳選手として参加しており、昨年は保護者で“介助”として同行していましたが、監督からのお誘いで初めてタッパーを担当しました。相手に知らせるタイミングは選手ごとに違って、少し手前がいい選手もいれば、ゴール直前で叩いて欲しい選手もいます。いま考えれば、もう少し準備時間が欲しかったですね。選手へのサポートに関しては、練習の成果を出してもらうことが結果に繋がりますので、大会にはリラックスして挑んでもらえるように心掛けています。

残念ながら鹿児島県での障害者スポーツの認知度はまだ低く、かがしま大会を機に障害のある子どもたちに水泳に興味を持ってもらえたらと思います。大会の競技役員には県内各地で水泳の指導をされている方が多いので、それぞれのエリアで障害者水泳を盛り上げてくれるでしょうし、新しい大会の相談などもあるようなので大会レガシーを活かして欲しいですね」